

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

一年の計は元旦にありとか、一日の計は朝にありなどといわれる。計とは数を数えることであるが、もくろみを立てることであり、計画や心づもりがしっかりと整理されていることもある。

計画をちゃんとするためには、心が整理されていなければ、まちがいが生ずる。ごちやごちやと乱れた、落ちつかない気持ちでは計算機のキーも押しまぢがえよう。朝や元旦はそうした意味でも心を整理して、さてどうしようと計を立てるのでないと、なかなかうまくゆかない。そのうちに半日がたち、一年もたってしまう。

乱れた状態を整えて、正しく筋みちをとおし、順序づけることを整理するという。元旦や朝のことだけではない。この整理がなかなかできないのが私たちの日常ではあるまいか。整理したいと思いつつながら、他の用事に追われたり、つい怠けたりして乱雑になっていく状態が多いのではなからうか。物の整理は、こうしたらよいと分かりやすいが、心の整理となると案外分かりにくい。病気になる時、人手がなくなつた時、事業が行き詰まつた時、子どもが言うことをきかない時、妻または夫が家出をした時、愛する人に死に別れた時……、その他いくらでもある。



## 心の整理

丸山竹秋

心の整理ができない時には、身のまわりの物を整理していると、心のほうの整理ができてくることもある。乱雑な部屋にいると、心もそのとおりになつて、すっきりとしない。だから「物の整理は心の整理」とも言われるのだが、実際の生活では、どのように心を整理したらよいのか、どうもはつきりしないというような場合がいくつもあるのではないか。

生活倫理とは、心の整理のことである。心を整理し、整頓することだと見なせば、これは毎日朝から晩まで必要なことであり、仕事のことには申すに及ばず、食事、入浴その他にわたつて暮らしの根本になることだと容易に理解できよう。

心の整理は生きていくことの根本につながるものである。なぜなら人は心によって行動し、心によって活動しているのだから。

心の整理は、すべての社会生活、経済生活、政治生活、芸術生活に欠かすことはできない。もちろん整理された心のおりに、なかなか実行できないという場合もある。そこに悩みもまた生ずるのであるし、そうした人々も多いことであろう。しかしそうした場合にあっての、そのまた心の整理もある。整理された心のおりに自分を動かすことがいつもできれば、事は簡単だ。しかし、なかなかそうは運ばない現実もある。実はそこにこそ、また厳しい人生の深味、妙味もある。深く深く、高く高く、心の整理をはかり、積み重ねてゆく。それがまた人生なのだ。

『選集』より